



ねっやま夢い学校舎

松原

学校通信まつばら 6月号
平成30年5月31日
(第404号)

世田谷区立松原小学校
校長 峯岸 敦子
〒156-0043
世田谷区松原5-43-26
TEL 3322-0191 FAX 3322-4351
URL <http://school.setagaya.ed.jp/~maba/>

題字は、彩の会 竹尾昭子先生にお書きいただきました。

松原小学校の教育目標

やさしい子 考える子 元気な子

①思考力・表現力を重視した授業づくりによる学力向上 ②一人ひとりのよさを認め合うことによる自己肯定感の向上 ③外遊びを通じた健やかな心と身体の育成

よい流れ

副校長 久野 浩登

「最高学年の子どもたちの活躍が学校のいろいろな場面にみられる学校には活気があります。さらに充実した学校生活となるよう、全教職員で全校児童を見守り、育てていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします」

これは学校だより5月号の巻頭言、峯岸校長の文章の結びです。

先日は運動会の参観、ありがとうございました。1500人を越える保護者・地域の皆様に子どもたちの躍動する姿を観ていただきました。当日は、いろいろな方々から「本当に子どもたちのがんばる姿っていいですね」「松原の運動会は毎年すばらしいよね」と声をかけていただきました。また、会を終えての片付けには、お父様方をはじめ、多くの方々が働いてくださり、あっという間に校庭の復帰作業が終了しました。改めて学校を支える保護者・地域の皆様の存在を感じた1日でした。

また同時に、本年度の運動会には、子どもたちの姿に大きな特徴があったことが、運動会後の保護者アンケートからわかりました。

「5年生・6年生が1年生をやさしくお手伝いしている姿を見て、とてもよい環境だと感じました」

(1年 保護者)「トイレの場所を探していたら1年生の子5～6人を誘導している5・6年の女子が声をかけて案内してくれました」(2年 保護者)「高学年の子どもたちが、運動会運営をしっかり工夫しながら行っている姿を見て、頼もしく感じました」(3年 保護者)「高学年の子たちが、係をきびきびとこなしていてすばらしかったです」(5年 保護者)「閉会式での代表児童の話を聞いて、小学校6年間ですばらしい心が育っていると感動しました」(1年 保護者)「上級生の種目も、1年生たちはあこがれのように見学していて、一体感があると感じました」(1年 保護者)

これらの文章は、ほんの一部です。高学年の子どもたちは今までも、係として運動会の運営にかかわってきましたが、私は本年度ほど、高学年の子どもたちのことが下学年の保護者アンケートに登場するのを見たことがありません。「高学年の活躍する場をつくる」という取り組みが、まず子どもたちの中に行動として表れ、そんな子どもの様子を見て保護者の方々がそれを価値付けるといふよい流れがこの運動会を通して見られたということは、学校にとって本当にうれしいことです。

一方、「すべて立ち見にしたこと」「昼食について」「リボンによる優先的な参観について」「敬老席の数の不足」など、運動会運営の面ではたくさんの課題があることもアンケートからわかりました。1つ1つの課題についてしっかりと話し合い、よりよい来年度へと繋げていきたいと考えています。

『いなくとも 太陽も あきらめず 思い出に残る 運動会』

運動会委員長 川崎 智弘

今年の運動会のスローガンは「いなくとも 太陽も あきらめず 思い出に残る 運動会」した。赤組も白組も勝利を目指し、自分の力を信じ、仲間を信じ、全力を出し切りました。ゴールをめざし懸命に駆け抜けた「短距離走」。学年の友だちと力を合わせ、楽しく取り組んだ「団体競技」。最高の表現ができるよう、約1ヶ月みんなで励まし合い一生懸命練習してきた「団体演技」。毎日の練習で日ごとにたくましくなった「応援団」。少ない練習の中、華麗にバトンをつなぎ、素晴らしい走りを見せた「代表リレー」1年生の児童代表の言葉、代表委員による誓いの言葉や代表の言葉、数々の係活動、シンボルマークやスローガン、窓に貼られたプログラム、デザイン旗も見事でした。

学年の枠を越えて、仲間の応援をしている子どもたちの、響き渡る歓声と拍手と笑顔が校庭に溢れていました。全校児童の心が1つになり、感動いっぱいの運動会となりました。

今年から会場をすべて立ち見にするなど、大きく変更したことがありますが、保護者・地域の方々のご理解、PTAのみなさまの支えがあったからこそ運動会を成功させることができました。そしてその支えがあったからこそ、子どもたちは今まで以上の力を発揮できたと思います。地域・家庭・学校のつながりが見えた運動会でした。本当にありがとうございました。

道徳授業地区公開講座

道徳主任 永澤 舞

今年度から特別な教科「道徳」が教科化されました。全学年、教科書と道徳ノートが配布され、試行錯誤しながら授業を展開しているところです。教科化され、登場人物への自我関与が中心の指導から、問題解決的な学習を通して道徳的な問題を多面的・多角的に考えることができる『考え、議論する道徳』学習を目指しています。

6月15日（金）に、道徳授業地区公開講座を行います。

今年度は、【C 主として集団や社会との関わりに関すること [規則の尊重]・[公正、公平、社会正義]・[勤労、公共の精神]・[家族愛、家族生活の充実]・[よりよい学校生活、集団生活の充実]・[伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度]】に関連した内容で、各学年の児童の実態に応じ、4時間目に全学級で道徳の授業を一斉に公開します。その後5校時に、地域の方をお招きして、体育館にてシンポジウムを行います。テーマに沿って、地域の方にお話をいただき、自分達が暮らす地域への意識と行動力を高めるために、子どもたちと意見交換をしていきます。ぜひ、多くの地域・保護者の方にご参加いただきたいと思っています。道徳の授業の参観、そしてシンポジウムへの多くの方のご参加をお待ちしています。

遠足を終えて

2年担任 谷野 香里

「わーっ」府中の森公園に着いたとたん、2年生の子どもたちから歓声が上がりました。目の前にはやわらかな緑の森が広がり、サワサワと若葉を通り抜けた風を全身に感じていました。

森の中でのアスレチックでは、順番を譲り合い、班で仲良く、元気いっぱい遊ぶことができました。小枝を集めてたき火ごっこをしたり、丘から転げ下りたり、自然の中でめいっぱい楽しみました。

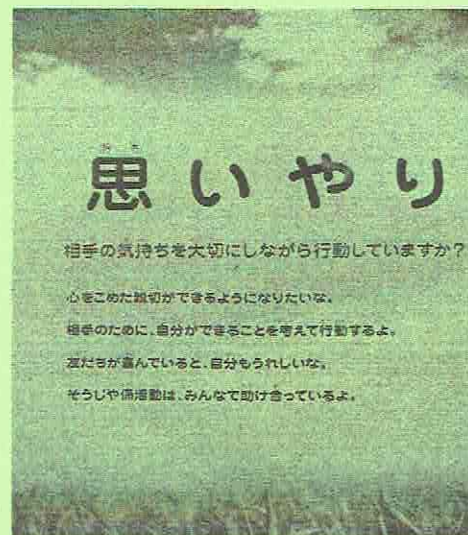
お弁当は、木漏れ日の降り注ぐ森の中でいただきました。後日、作った俳句にも「おべんとう おいしすぎだよお母さん」と、家族の愛情がたっぷり詰まったお弁当のことが詠まれていました。友だちや先生との会話を楽しみながら食べたお弁当は格別のおいしさでした。

電車の中でも、ルールを守ろうとする姿が立派でした。周りを気遣ってリュックの背負い方を変えたり、初めて、席を譲る体験をした子もいました。帰り道では、「楽しかったね。」「家族とまた来たいな。」という声がそこかしこから聞こえてきました。友だちとの絆を深めた1日でした。

豊かな心

5月のテーマは「思いやり」でした。

5月は「思いやり」について取り組みました。困った子がいたら助けてあげたり、泣きそうになっている子がいたら「どうしたの」と話を聞いてあげたりしている風景が日常の中で見られます。人は優しくされたり親切にされたりすると、温かな気持ちになり、もらった優しさを自然に返したくなります。人の優しさや親切は、人の心を動かし、思いやりの心を育てていきます。



～豊かな心 掲示版より～ (2年)

わたしは、自分のことだけでなく、みんなのことも考えたいです。
わたしは、みんなのお手つだいをしたり、人になにかをゆずったりしたいです。

ぼくは、まわりの人のこともかかんがえて気をつけてこうどうしたいと思います。
これから、ぼくは、いっぱい自分から親せつにこうどうしようと思いました。

学どうのかえりにわたしはかさをもっていないでした。
そのときちかくにいた人がかさにいれてくれたのがうれしかったです。
これからはだれかがこまっていたらたすけてあげたいです。

わすれものをした時に、友だちがとどけてくれたからうれしかったです。
こんどは、ぼくが、わすれものをとどけてあげたいです。

母さんがおもしろいもつをもっているときに1こだけもってあげて、「ありがとう」っていわれてうれしくなりました。
これからもっと「ありがとう」っていわれるようにがんばりたいです。

ほかの子が水ぎがきれなくてこまっていた、きかたを教えてあげて「ありがとう」といわれてとてもうれしかったです。
これからたくさん「ありがとう」といわれたいです。

ともだちのつくえをはこんであげたとき、「ありがとう。」といわれて、「しんせつにできてよかったな。」とおもいました。
これから、やさしいことを、いっぱいできる人になろうとおもいます。

テニスでならんでいる時、友だちが「先にどうぞ」とゆずってくれたのでうれしかったです。
「ありがとう」と言ったら、あい手もよろこんでくれました。
こんど自分がそうだったら、ゆずってあげたいです。

「人格の完成を目指して」

6月のテーマ “責任(せきにん)”

- ・自分の役割を自覚し、きちんとやり通すようにしよう。
- ・自分で約束したことは、最後まで頑張ってやり抜こう。

6月の生活目標 “責任(せきにん)”

- ・やるべきことは最後まできちんとやり抜こう。
- ・係・当番の仕事はしっかりと行おう。
- ・使った物はきちんと後片付けしよう。